



指導者制度制定80周年を迎えて

会 長 藤 島 勝 雄

昭和14年12月、全日本スキー連盟が初めて「スキー指導者検定講習会」を実施してから今年で80年を迎えます。

このことを記念して、今年度の「北海道スキー指導者協会の集い・2019札幌大会」は、“スキー指導者制度制定80周年記念”として、平成元年、小樽「おこばち山荘」での「指導者制度50周年記念大会」から始まった、恒例の“功労者表彰”を行いました。



2019札幌大会功労者表彰式

本協会の原点である“スキー指導者検定制度”を確立した「第1回スキー指導者検定講習会」当時の経緯を書き伝えることは、これに直接携わった柴田信一先生の薫陶を受けた、最後の世代の一人としての役目であろうと思いますので、「北海道スキー指導教本」その他の文献から抜粋して記します。

昭和14年1月1日、全日本スキー連盟(SAJ)は当時の小島会長が“企画を抱いてより茲に数年、其間編纂委員諸君が会合して疑義すること幾十回、漸くにして一先完成を見た”と巻頭言を寄せた「一般スキー術要項(現在の日本スキー

教程)」を発行しました。

同年1月～3月、SAJはこの「一般スキー術要項」を元に、「全国スキー講習会」を全国40か所のスキー場で開催して3,600名が参加、北海道では札幌、小樽、旭川、函館、野付牛、倶知安、岩見沢の7会場で765名もの参加がありました。

講習会終了後にテストを行い、成績の良い者に1級(148名)、2級(525名)の技術章を与えました(日本初のバッジテスト)。

講師のほとんどは往年の名選手でしたが、名選手が必ずしも一般スキーの名指導者とはなりませんでした。

そこで、一般スキーの指導者は競技には無縁でも、各地でスキーに励んでいる者に指導者資格を与えた方が効果的だという方針から、“指導者検定制度”の確立を急ぎ、新たに「指導者講習会」を開催することにしました。

同年12月21日から3日間、山形県五色温泉において「第1回指導者検定講習会」を実施し、北は樺太から南は広島県にわたる全国各地から64名が受講しました。

検定委員長は、ベルリン大学留学帰りの高橋次郎先生(SAJ技術委員長)で、連盟理事や技術委員の8名が講師で、その殆どが競技畑出身者が占め、北海道からは山田勝巳、長田光男、稲葉忠七、杉村鳳次郎、藤沢伸光の各氏、柴田信一先生が助手として参加しました。

北海道の合格者は末武久、曾田起一郎、高橋貞助の3人で、後に、助手を務めた柴田信一先生も合格者に加えられました。

平成元年の「指導者制度50周年記念講演会」で柴田先生は、その講習会前後の模様を次のよ